

「市内小中学校での統一したシステムによる 学校Webサイトの運用」

佐野市教育センター（栃木県）

はじめに

学校Webサイトによる情報公開・情報発信は、「より広い地域へ」「リアルタイムな情報を」「双方向で」といったメリットをもち、学校における教育活動や地域の特色ある情報を発信することによって、地域や家庭との情報交換を一層活発にすることも期待できる。しかし、教職員の校務は繁忙であることやWebサイト作成に関するスキル不足などにより、学校Webサイトが未開設であったり、学校Webサイトが開設されていても情報更新が滞ったりしている学校も少なくない。

本市においても、同様な状況があり、平成19年4月現在、市内全小中学校の約9割が学校Webサイトを開設しているものの、頻繁に更新し、保護者等に積極的に情報を公開している学校は少なく、約3割の学校はほとんど更新が行われていない状況であった。

このような状況を改善するため、佐野市教育センターでは、平成19年度、学校Webサイト運用上の課題を探り、次世代の学校Webサイトの在り方について、栃木県総合教育センターと連携を図り、研究を推進した。

「Netcommons」（国立情報学研究所開発）を利用し、児童・生徒のプライバシーを守りながら、保護者や地域社会などに「開かれた学校」に相応した学校Webサイトのモデルを作成し、その効果の検証を行ってきた成果を報告する。

システムの構築から学校での運用に備えて

(1) システム構築

本市においては、セキュリティ上の問題から現在、行政のネットワークサーバーにシステムを組み入れず、民間のレンタルサーバーを利用している。平成19年6月に栃木県総合教育センターの

協力により、市内全小中学校（38校）分のシステムを構築した。

なお、システムを一括管理する目的から、FTPアカウントは各小中学校には発行せず、サーバーについては教育センターで管理している。教育センターにてシステムの一括管理を行うことにより、システムのアップロード、迷惑メール対策のCGIの利用等、学校に代わって行うことができるとともに、市内の小中学校（38校）で共通した運用を行うことができるようになっている。

(2) 運用規定ならびにポリシーの作成と研修会の実施

市内小中学校の教員6名を委員として委嘱し、調査研究委員会を組織した。委員会では、まず、サーバーを含めシステム利用に関して「schoolnet-sanoシステム」運用規定を作成した。

次に、各学校で学校Webサイトを作成する上での留意事項等について「学校Webサイト作成に関するポリシー」を作成した。現在本市では、システムの運用と学校Webサイト作成についてはこの規定ならびにポリシーに基づくよう共通理解を図っている。

なお、本委員会の委員に対して平成19年8月に、栃木県総合教育センターから講師を招聘し、システム利用に関する研修会を行った（写真）。



写真・講師を招聘しての調査研究委員会研修会

資料2・佐野市立山形小学校のホームページ



て運用することとした(資料1)。

ウ) 保護者への通知

サイトの新規開設についてのお知らせ、サイトに掲載する写真についての許諾等について検討し、通知を作成・配付する。

③運用のポイント

本校の場合、学校長が1日1回以上、本校Webサイトを閲覧しており、新しい記事があればすぐ承認している。また、学校長が出張等で不在のときでも、新しい記事の承認がスムーズにできるように対応法を検討した。現在は、記事投稿をCMSのメール配信機能により、学校長の携帯電話に伝え、迅速な対応が可能となっている。学校Webサイトを運用していく上で、管理職の理解・協力は重要な運用のポイントの一つである。

(2) 小規模校(佐野市立山形小学校)での運用例

本校は小規模校という特性を生かし、職員全員が学校Webサイトの運用(ページ作成)に関わることを基本としている。

①校務分掌による分担と記事の投稿

職員の負担にならないように、校務分掌と結びつくようなページデザインを検討した。また、トップページには【日誌モジュール】と【お知らせモジュール】を数多く利用することで、更新等の作業も容易に、継続的にできるようにした(資料2)。

②グループルームの学級通信としての利用

本校は、学年1学級(単学級)の学校であり、学校Webサイトを保護者との連絡用として活用することを考え、各学年(学級)のページをグループルームに設定した。閲覧に必要なユーザーIDとパスワードは、学年(学級)だよりに記載した

り保護者会で知らせたりして、各学年の児童の保護者のみが閲覧できるようにした。ページ内容は、二つの部分から構成されている。一つは、「学年だより」(キャビネットモジュールを利用)として学年で配布した印刷物をPDFファイルで閲覧できるようにしている。また、日誌モジュールを使い「学級通信」を掲載している。ここで

は、保護者に伝えておきたいが、トップページの山形小歳時記では紹介しにくい学年の出来事やお知らせ、児童が連絡帳に書いたことなどを記載し、保護者が家庭で確認できるような内容にしている。保護者から「もっと学年や学級のことを詳しく知らせてほしい」「学校Webサイト上に学級だよりを作ってほしい」等の要望もあり、このページの運用を開始した。しかし、インターネットの環境が整っていない家庭も多いので、学校で児童を通して伝えたこと以外の情報は、記載しないよう各学年で配慮している。また、携帯電話から本校のWebサイトに接続し、このIDとパスワードを入力することで、各日誌が閲覧できることも紹介した。

🎯 終わりに

本市では現在このシステムを利用した学校Webサイトの組織的な運用を市内全小中学校にお願いしている。学校Webサイトの充実により、数多くの学校が、今以上に「開かれた、信頼される学校」となることを期待したい。

また、佐野市内の全教職員が、情報を発信する上での配慮事項(個人情報、著作権、肖像権等の保護)について理解を深めるとともに情報を発信する楽しさを感じていただければ幸いである。

栃木県佐野市教育委員会教育センター

<http://www.schoolnet-sano.jp/kyoiku-c/>

大規模校の実践例：佐野市立南中学校

<http://www.schoolnet-sano.jp/minami-j/>

小規模校の実践例：佐野市立山形小学校

<http://www.schoolnet-sano.jp/yamagata-e/>